

平成31年度 学校自己評価システムシート (県立吹上秋桜高等学校)

目指す学校像	生徒の新たなチャレンジをとことん支援し、可能性を伸ばす生徒応援学校
--------	-----------------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 「授業がいのち」を基盤とした基礎学力の定着と魅力ある授業づくり 基本的な生活習慣の定着と規範意識の確立に向けた生活指導の充実 キャリア教育の充実による進路意識の向上と個に応じた指導の実践 地域の関係機関と連携し、地域に根差し信頼される開かれた学校づくり
------	---

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	5名
	事務局(教職員)	9名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							
年度目標				年度評価(2月4日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	<ul style="list-style-type: none"> 授業に熱心に取り組む生徒も多い反面、授業に出席しないために未履修、未修得に至る生徒も多い。また、高校の学習内容を学ぶために必要な知識が定着していない生徒もいる。 日々の授業の質を高めることは、生徒の学ぶ意欲を喚起させるきっかけともなる。教師の教科指導力の向上を図りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○義務教育段階での学び直しの徹底と各教科における学習内容の定着 ○魅力ある授業づくりのための授業参観の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業の中で義務教育段階の学習内容について復習を行う。 ②学習内容の定着を図るために教科担当者とHR担当が連携し、欠課時数を減らす。 ①前期と後期の2回に授業参観週間を設定し、参観票を記録し、必要に応じて協議をする。 ②教科で身につけさせたい学力についての共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①国語・数学・英語の3教科を中心に義務教育段階での学び直しをすることができたか。 ②未履修率が25%以下となったか。 ①年2回授業参観週間を設け、授業改善についての提案をすることができたか。 ②考査実施後の分析を行い、今後の指導を改善できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学び直しの徹底・学習内容の定着については、概ね達成できた。数学については、後期の産社の中で取り組むことができた。国語・英語は授業で実施した。未履修率は前期17%と改善傾向である。 授業参観の推進については、ほぼ達成できた。授業参観週間は、前期・後期で年2回設定し、延べ83名が参観し、指導方法について協議をした。 	<ul style="list-style-type: none"> B A 	<ul style="list-style-type: none"> 学び直しについては、教育活動の中での位置づけを明確にしていきたい。 前期の未履修率は数的に改善が見られたものの、学習意欲の低い生徒が依然として見受けられる。担任と教科担任の連携をより一層図り、生徒理解に努めたい。 授業参観週間(年2回)も継続的に取り組み、授業改善をしたい。
2	<ul style="list-style-type: none"> 様々な学習歴から、基本的な生活習慣が確立されず、欠席・遅刻・早退の多い生徒もいる。個人の抱える課題を的確に把握し、困難を抱える生徒に対しては教育相談部や外部機関との連携を図る必要がある。 規範意識が確立されていない生徒もいる。問題行動の未然防止を図り、集団生活におけるルールやマナーを育むために、様々な場面で全教職員による生活指導に取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の抱える課題の的確な把握と校外とのサポート体制の充実 ○全教職員による粘り強く積極的な生活指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ①中学校、ハローワーク、福祉施設等との連携を図り、生徒の個別の支援を充実させる。 ②困難を抱える生徒に対してはケース会議等を開催し、組織的に対応する。 ①各年次と連携を図り、学校全体で組織的な生徒指導を展開する。 ②立番、巡回指導を実施し、挨拶を励行する。 ③自動二輪車等の運転免許の説明会を実施し、交通安全の一員としての自覚を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①就労支援が必要となる場合は外部との連携を図り、個別に適切な支援が行えたか。 ②教育相談部を定期的に開催し、必要に応じてケース会議を実施できたか。 ①生徒指導件数が昨年度より減少したか。 ②遅刻・早退・欠席の数が昨年より減少したか。 ③教育委員会等主催の講習会に参加したか。交通安全教育を充実させることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> サポート体制の充実については、ほぼ達成できた。外部ゲストを招聘して不登校について考えるおしゃべりカフェや、北部地区高等学校就労面接会・説明会を行うなど、新たな取組も企画できた。 生活指導の充実については、ほぼ達成できた。出席率は約84%(前期)で、昨年と同じだが、長欠者は20名ほど減少している。 生徒指導件数も昨年並みの件数で、学校の雰囲気も落ち着いている。運転免許の取得に関しては、説明会を実施し、円滑に運用できた。 	<ul style="list-style-type: none"> A A 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校生徒への支援と就労支援を中心に、外部との連携を図り、必要な支援のあり方を教育相談部が中心となり、学校全体で考えていく雰囲気醸成していきたい。また、年次会での生徒情報の把握に努め、ケース会議を開催するなど、必要な支援を行いたい。 生徒指導に関しては、個人面談を丁寧に行い、担任・年次・関係分掌で連携して個別の支援を継続的に取り組んでいきたい。
3	<ul style="list-style-type: none"> 進路意識に差があり、計画的な高校生活を過ごせない生徒もいる。社会に繋げるためにも、進路意識と自信を持たせ、進路決定に必要な基礎学力と共にコミュニケーション能力などの社会性を育む体験的なキャリア教育の推進が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○産社、総学とLHRを活用したキャリア教育の充実 ○外部と連携した進路講演会等の計画的な実施と進路意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ①本校の産社・総学を含めたキャリア教育プランに基づいた指導をする。 ①ハローワークや大学・専門学校と連携し、進路講演会を定期的に開催する。また、体験的な活動を積極的に推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①産社・総学・LHRを効果的に活用し、計画的に指導することができたか。 ①年次別や進路別の進路講演会を開催し、生徒の進路意識を向上させることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の充実については、ほぼ達成できた。社会に出てから必要となる資質・能力にかかわるテーマ学習、新聞を活用した学習などを各年次で工夫して指導ができた。 進路意識の向上については、ほぼ達成できた。年間を通して、進路ガイダンス等を計画的に実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> A A 	<ul style="list-style-type: none"> 1・2年次については、産社・総学・LHRを有効に活用し、本年度の成果と課題を共有し、学習計画を作成していきたい。また、ハローワークや大学・専門学校等の外部との連携を緊密にし、生徒の進路意識を向上させるようにしていきたい。
4	<ul style="list-style-type: none"> 地域・中学校・保護者に本校の教育活動に対する理解をより深めてもらう必要がある。学校説明会やHPで本校の特色を情報発信する。また、緊急時対応や情報提供のためにスマート連絡帳を効果的に活用する必要がある。 ボランティア活動や地域連携行事は、生徒の貴重な体験活動であるので積極的に推進する。また、関係機関やPTAと連携し創立十周年記念行事を進め、本校の魅力を地域社会に発信することが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○HPを活用した教育活動の積極的な情報発信とスマート連絡帳の効果的な活用と広報活動の推進 ○関係機関やPTAと連携した創立十周年記念行事の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ①HPの更新を速やかに行い、本校の教育活動の魅力を発信する。特に、創立十周年の記念行事の広報活動を充実させる。 ②学校説明会での資料や生徒の体験発表について、わかりやすく説明する。 ①PTA・後援会行事への積極的な参加を呼びかける。また、創立十周年記念行事には関係機関やPTAと連携し準備を進める。 ②年2回のPTA広報誌の内容の充実を図る。 ③ボランティア活動等への生徒の積極的な参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ①HPのアクセス件数が7万件を超えることができたか。 ②学校説明会や体験入学等の参加者アンケートで、中学生・保護者の満足度が向上したか。 ①創立十周年記念行事実施に向けて、計画的に会議を開催し、行事を成功させることができたか。 ②PTA活動や生徒の活躍の姿を紹介する魅力あるPTA広報誌ができたか。 ③ボランティア活動を通して、地域社会に貢献できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報活動の推進については、ほぼ達成できた。HPのアクセス数は、約15万件と増加したが、本校を受検する中学生が閲覧していたことも要因として考えられる。説明会の参加者数も増加しており、アンケート結果も概ね良好で、参加者の満足度も高い。 地域に開かれた学校づくりの推進については、ほぼ達成できた。創立十周年記念行事については、PTAの協力を仰ぎ、無事に行事を終えることができた。広報誌では、生徒の活躍を紹介する臨場感溢れる誌面となった。ボランティア参加者数は58件と増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> A A 	<ul style="list-style-type: none"> HPについては、更新が十分に行われていない内容もあるので、更新の依頼を行いたい。また、学校行事等の後には速やかな更新を行いたい。 説明会は、今後も参加者数が増加することが予想されるので、開催の形態を見直していきたい。 PTAには、引き続き学校行事等で支援していただき、教育活動の更なる質の向上を目指したい。また、ボランティア活動については、生徒の意識を変える好機となるので、積極的な参加を呼び掛けたい。

学校関係者評価
実施日 令和2年2月14日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>授業参観週間を行い、先生方が授業のあり方について熱心に協議をしていることは大変素晴らしいと感じた。確かな学力を身につけさせることは、大変重要なことであるので、今後とも授業改善に取り組み、重点目標に掲げられている魅力ある授業づくりを積極的に推進して行ってほしい。</p> <p>また、多様な学習歴を持つ生徒に対しては、個に応じた指導が求められるが、コスモスステップなどの学び直しや授業の中でのきめ細かな指導を今後とも継続させて行ってほしい。</p> <p>長欠の生徒の減少ということは、日頃の先生方の個に応じた丁寧な指導が、効を奏しているものと思われる。今後とも、個に応じた手厚い指導をお願いしたい。</p> <p>年間を通して個人面談を計画的に行い、生徒の抱えている課題の把握に努めていることや、教育相談体制が充実していることも、生徒にとっては前向きに高校生活を過ごすことができる大きな要素の1つであると考えられる。今後とも、生徒と真摯に向き合い、「生徒の新たなチャレンジをとことん支援し、可能性を伸ばす生徒応援学校」として魅力ある教育活動を展開して行ってほしい。</p> <p>進路意識を高めるために、外部との連携を密にして、さまざまな取組をしていることが素晴らしい。生徒に早い段階で目標を持たせることは、進路指導で重要なことであるので、今後とも創意工夫したキャリア教育を積極的に推進して行ってほしい。</p> <p>また、コミュニケーション能力の育成は、社会生活を営む基本となるので、授業等の場面でも、話し合いの場面などを積極的に取り入れて行ってほしい。</p> <p>新鮮な情報を発信することは、保護者や地域と連携を図るうえで極めて重要である。特にホームページの内容の充実や、魅力ある広報誌の発行に継続して取り組んで行ってほしい。</p> <p>また地域でも、大変評判が良く、大きな問題点は見受けられていない。日々の教育活動の成果であると、高く評価している。</p> <p>さらに中学校でも、個を大切にしたい手厚い指導が受けられると評判で、高校生活を通して、生徒自身に成長を自覚させることができる素晴らしい学校であると考えている。学校の魅力をさらに高めて行ってほしい。</p>